

多摩支部会報

(2022年 春季号一通算第46号)

令和4年4月吉日発行

明治大学校友会

東京都多摩支部

支部長 當麻 功

広報委 飯田光宏



懐かしの和泉第二校舎



↑上 和泉ラーニングスクエア
2022年3月竣工

支部長挨拶
多摩支部の皆さまへ
當麻 功

(昭39年 商 小平)



新たに2022年度を迎えるに際し、ご挨拶申し上げます。

日頃は多摩支部の活動に対し、ご支援・ご協力をいただきありがとうございます。

過去2年間にわたる新型コロナウイルスのパンデミックによりあらゆる活動が制限・中止を余儀なくされてきました。校友会活動もその例外ではなく、多摩地域全域にわたり、極めて厳しく苦しい危機的状況が継続しています。対面形式での総会は3年間開催に至らず、役員会決議や書面決議とし、各地域支部における校友間の情報交換やコミュニケーションを計る機会のないままとなっています。

その中で、昨年は、大学創立140周年を迎えるにあたり記念事業への寄付を実行したり、困窮学生への寄付を行うとともに、メールによる役員会や会報誌の発行さらには組織委員会主催の地域間交流の計画などでコミュニケーションをはかるべくすくな

いながらの努力を重ねてきました。

現在の世情は、ロシアによるウクライナへの進攻という暴挙に世界の批判の高まりに集中しています、一日も早い和平交渉の成果成立を望むところです。

一方ではコロナの感染拡大は減少傾向にあるとはいえ、まだまだ高止まりの状態にあるのが現実です。私たちは、校友の安心・安全を第一に考えながらの行動が大切と考えますが、すこしずつ活動の範囲を拡大していくための準備期にも入ってきているように思えます。

2022年度は校友会の再生・復興の年度と考えています。年度の前半は多摩支部の企画事業の活動や地域支部の計画を実行に移すべく準備をしていきましょう。夏から秋にかけての力強い活動に備えましょう。これらの活動を通じて後退した校友会への関心を再度呼び覚まそうではありませんか。さらに会員の拡大につなげていきましょう。そして2023年度を迎える多摩支部設立20周年をその集大成の年度とすべく特別な意義をもつ対面形式での総会への準備に入っています。大いに期待してください。

地域支部の校友の皆様、勇気・元気・やる気を出して校友会活動に参加してください。



↑ 和泉ラーニングスクエア

階層イメージ →

いま、
いちばん必要な教材は、
キャンパスだと思う。

明治大学は、さらに前へ。
和泉ラーニングスクエア、はじまります。



幹事長挨拶
校友の相互参加で



江面利和
(昭47年 工 日野)

2022年も4分の1が過ぎました。年齢を重ねると特に時の経つのが早く感じられます。

年齢を年間日数で割ると実感できます。生まれたばかりの赤ちゃんは $1 \div 365$ 日 = 0.003 (年/日) ですが、20歳では $20 \div 365$ 日 = 0.05 (年/日) で、70歳では $70 \div 365$ 日 = 0.19 (年/日) です。70歳では20歳に比べ1日が0.14年多いので、それだけ早く時間が進んでいます。1年が段々短く感じられることがこれで分かると思います。

年々、時間が短くなることで、できることもできなくならないか心配ですが、やりたいことは身体が動くうちに、先延ばしせず、行いたいと思っています。

日本には四季があり、美しい自然を楽しむことができます。

季節毎に色々な花が咲き、心を和ませてくれます。今、人間の生活様式はコロナですっかり変わってしまいましたが、周りの自然は変わることなく、その生命

力には感動するばかりです。何事にも感動する気持ちを持つこと、あるいは好奇心を持つことが若さを保つ秘訣かと思っています。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、今年も新型コロナウイルスの影響が続いています。オミクロン株は罹っても軽症で済むと云われていますが、後遺症が問題になっています。国は経済優先に舵をきったようですが、この先、新たなウイルス株の出現で第7波の感染拡大が起きることも想定しておかなければなりません。

このような環境下ではマスクなしで近い距離で会話することも当分は困難です。3年連続で対面形式の総会が開催できないのは、非常に残念ですが、安心・安全を担保した校友相互の親睦を図ることができない以上、やむ負えないことと考えています。

しかしながら、感染予防対策をした上で、活動そのものは徐々に再開して行けると思います。

今年度は多摩支部21地域支部の垣根を超えた、校友の相互参加ができるよう、企画事業員会にも新しい企画をお願いしているところです。

今後、大学スポーツ観戦も徐々に復活して行けると思いますので、校友の皆様にも是非、参加していただければ有難いと思います。

Q. 『今年度の課題・今、思うこと』等への寄稿』 (受信順に掲載)



本年度の活動方針と今後の課題

昭島地域支部長 箕輪 隆志 昭46 商
(第19回 多摩支部総会実行委員長)

3月27日に開催した地域支部役員会に、2年間にわたり中止した多摩支部定時総会は、従来の対面形式から書面決議に、議案の表決は当初、ハガキ形式とQRコードによる併用も検討するも正確性を担保する観点からハガキ形式に一本化した旨を報告した。出席役員からは何ら異論はなかった。

その後年会費の入金状況を詳細に検討したところ、この2年間実質的な支部活動が皆無だったこともあり、会員数の漸減に比例して収入は3年前に比べ約3割減となっていた。

今期はこの事態を厳粛に受け止め、活動の再開と役員を中心に一声かけ運動で各種行事への参加者数の増加に努める所存です。

支部活動の活性化に何よりも大切なことは若い世代・女性の会員増が必須です。そのためにはどうしたらよいかこの1年間議論して実践していくつもりでいます。それでも会員数の減少が続くのであれば隣接する支部との合同支部の構想も検討する必要があるかもしれません。



「ピンチをチャンスに」

町田地域支部長 小川 紳夫 昭和46 文

町田地域支部は1980（昭和55）年10月10日に発足しました。発足当時の会員も健在ですが、40年の歳月は地域支部にも、会員一人ひとりにも、大きな変化をもたらしています。会員の高齢化と若手の加入の伸び悩みが大きな課題となっています。

8つの同好会活動も地域支部の大きな誇りですが、現在は多くが活動を休止しており、再開待ちの状況です。今までのように「集う」ことができないことが影を落としています。

明るい話題もあります。来年3月11日に明治大学マンドリンOB倶楽部の町田演奏会を予定しています。概ね2年に1度の開催で第20回を迎えます。演奏会の成功に向けて取り組む中で組織の力を高めていきたいと思ひます。まさに「ピンチをチャンスに」です。



企画事業にご参加、ご協力を!!



小平地域支部長 土井 隆夫 昭45年 商
(多摩支部企画事業委員長)

このたび、多摩支部企画事業委員長に就任いたしました土井隆夫(1970年商卒、小平地域支部)でございます。前任の江面様はじめ歴代の方々のご活躍の後で大変でございますが、村野副委員長他5名の委員の方々とは協力しながら事業を推進して参りたいと考えております。

企画事業委員会は、コロナ感染症発生後は、唯一「多摩支部グルメマップ」を発行しましたが、他は中止を余儀なくされました。また最近、コロナ感染症が減少から増加に転じ、第7波につながってしまう心配もあります。状況を見ながらにはなりますが、安全対策を講じながら企画事業を実施していきたいと考えております。

2022年度は、多摩支部20周年事業の一つであります「明治多摩版タウンページ」作成(校友経営の各種店舗や士業事務所等を紹介)、新企画「21地域支部を知ろう!」(“写真でスタンプラリー”～年に3地域支部位を選んで、スタート駅と到着駅を決め、あらかじめ決めたコース内の何か所かの目標写真を撮ってくる)、それに従来(六大学野球、ラグビー、箱根駅伝予選会)の応援観戦など、いろいろと計画しております。開催の際には多くの校友皆様のご参加をお願いいたします。

本当に、本年度は一つでも多く事業を実施できますこと祈って、校友皆様とお目にかかれる機会が多くありますことを心から願っています。

新年度に当たっての抱負



多摩市地域支部支部長 中山雅雄 昭37年法

新型コロナ感染拡大が止まぬ中で新年度を迎えました。当支部は来年4月に設立10年という大切な時期を迎えることとなります。

当支部は現有校友会員80名余という小規模の校友会支部ではありますが、この設立10年という記念すべき年を迎えるにあたり、校友の皆さんが多く参加し喜んでもらえるよう、昨年11月には創立10周年記念行事の開催を決議し、実行委員会を立ち上げました。

これまで2回にわたる実行委員会を開催し、具体的事項について検討を進めてきました。

新年度に入り各記念行事内容の実施準備に入り、令和5年5月27日(土)開催の「明治大学校友会東京都多摩支部多摩市地域支部創立10周年記念行事」を、多くの校友とともに祝い、今後の校友会のますますの発展を期したいと思っております。

多摩エリアの魅力を発信しよう



村野 公一 青梅 (昭和59 政経)
(むらのきみかず)
(多摩支部企画事業委員会副委員長)

青梅生まれ、青梅育ち、青梅在住の村野と申します。主な仕事は、企画・演出・執筆・講師業。父の家業であった贈答品・古美術品関連の事業も継いでいます。青梅の素敵な情報を発信するNPO法人青梅まちづくりネットワークの代表理事も務めています。ポピュラー音楽の演奏や江戸系の祭りの研究はライフワークです。

東京にあって多摩エリアは、世界の先進都市である23区エリアに対し、地面がたくさん見える過ごしやすい環境が特徴ではないかと思っています。多摩エリアの各地はそれぞれに、東京の外郭ならではの文化性を育てて、それは他にはない大きな魅力と感じています。そうした多摩エリアの魅力を地域の明大OBの諸兄と共有し、日本全国に、そして、世界に向けて発信していけるような動きができればと考えています。



稲城和太鼓演奏



福生七夕まつり



羽村夏まつり 万灯



多摩センター夏まつり



清瀬ひまわりフェスタ



東久留米夏まつり



阿伎留神社例大祭

大学関係コーナ



和泉ラーニングスクエア甲州街道側
出典：明治大学web



2021年度卒業式 出典：明治大学web

2021年度の明治大学卒業式を3月26日、日本武道館（千代田区）で挙
行しました。満開の桜が出迎える中、学部生6808人、大学院生840人、
計7648人が学び舎を後に、新たな一歩を踏み出しました。

（出典：明治大学web）

卒業式学長告示概略

未来への「よい準備」を始めよう

学長 大六野耕作



パンデミックがもたらした「生きにくさ」を強靱な精神力で克服し、本日卒業・修了を迎えられた皆さん

に対し、深甚なる敬意を表すると共に心からお祝い申し上げます。

(略)

パンデミックの下の漠然とした「閉塞感」の中で、孤立感に苛まれた日々もあったのではないかと思います。そしてこの災禍は、一方で、われわれ人類が作り上げてきた近代文明の抱える脆弱性を白日の下に晒すことになりました。

(略)

卒業という新しい門出は、明るい未来を皆さんご自身が造り始めるスタート地点でもあると私は確信しています。

(略)

明大ラグビー部は1997年の大学選手権優勝を最後に、2019年の王者復帰まで22年間の長い低迷のトンネルを抜け、常に優勝を争うチームに変身し、再び日本代表に多くの選手を送り出すようになった背景には、極めてシンプルで覚悟さえあればだれもが実行できる小さな努力の

積み重ねがありました。

それは、勝てない理由を突き詰めて共通の理解とし、その解決への実行可能な方策をチーム・個人のそれぞれが実施し続けるということです。

これを「よい準備」と位置付けました。

皆さんには、在学中に培った知識・知恵・技術、そしてその精神力を総動員して、今、世界が直面している問題に正面から立ち向かい、「人間が人間として生きるに値する豊かな社会（世界）を創造するために「よい準備」を始めていただきたい。時流に流されることなく、現在起こっている事態を冷静に分析し、世界のあるべき姿を描き、その実現を図る方策を生み出して欲しいと願っています。

結びにあたり、アメリカの思想家：ラルフ・ウォルド・エマーソンの次の言葉を贈りたいと思います。

「・・・世間で言われていることに併せて生きるのは簡単だ。自分の考え方に従って独りだけで生きるのも難しくない。しかし偉大な人間は、群衆の中にあって他者への思いやりを失わず、自らの精神の独立を保持しつづけるのだ」

皆さん！あらゆる困難を乗り越えながら「力強く 前へ！」

出典：明大広報第760号

2021年度 卒業生数・修了性数					
学部		大学院			
法学部	799	博士前期	627	博士後期	35
商学部	1107				
政治経済学部	960				
文学部	787	専門職大学院			178
理工学部	874				
農学部	505				
経営学部	679				
情報コミュニケ	533				
国際日本学部	287				
総合数理学部	277				
学部計	6808	総数	7648		

卒業式理事長祝辞概略

ニューノーマル時代の担い手となる皆さんへ

理事長 柳谷 孝



(略・・・冒頭、新型コロナウイルス感染症に関してのお見舞いと医療従事者等への謝辞が述べられて生じます。

又、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻やアジア区域における懸念等について語られています(紙面の都合上割愛しました)

コロナ禍という予期せぬ困難により学習環境や生活環境が一変し、不安や戸惑いがある中でも、ゆるぎない信念とたゆまぬ努力のもと研鑽に励まれ、苦勞を乗り越えて学位を取得されましたことに心より敬意を表します。

(略) コロナ禍は我々の価値観や行動様式に大きな影響を与え、持続可能な世界を目指すための国際的な目標である(SDGs)や、IT技術により生活やビジネスをより良く変革させる「DX・デジタルトランスフォーメーション」などに対する取り組みが一層加速しています。さらには、メタバースと呼ばれる仮想空間を事業に適応させる「MX・メタバーストランスフォーメーション」への関心が高まるなど、今後、社会は更に劇的に変化を続けていくことでしょう。そのような誰も経験したことのないニューノーマル時代の真ただ中へと皆さんは向かっていくことになります。

しかしながら皆さんは、入学前には想像もしていなかったパンデミックの渦中においても、日々自己を律しながら勉学に励み、卒業という目標を達成されました。そのような意味では大いに自分に自信を持っていただきたいと存じます。

ただし、自信を持ちすぎますと、それは「自惚れ」になります。したがって、謙虚でなければなりません。一方、謙虚になりすぎますと、今度は「卑屈」となります。したがって、自信と謙虚の間に自分を置いて、その姿を心の鏡に写し、写った等身大の自分をさらに成長させるという心構えが、これからの社会で活躍していく上ではとても大切なこととなります。

「自信と謙虚に間に自分を置くというセルフガバナンスと、等身大の自分をさらに成長させるという主体性。」これこそが本学がモットーとする「個を強くする」ことの神髄でありましょう。母校明治大学で培った揺るぎない「個」を掲げ、不屈の明治魂を胸に、未来を創造する気概を持って、これからの時代を切り開いてください。そして地球市民の一員として、国や人種の違いを超えて強調できる世界を希求するとともに、人類と地球環境との調和した未来を創造することに、皆さん一人ひとりが貢献して欲しい。

(略)

結びになりますが、本学の在學生は大学院生も含め約33,000人におり、そのうち奨学金を利用している學生は、延べ14,733人に上がる。こうした学費面はもちろんのこと、各種施設整備等に校友をはじめ多くの方々のご寄付によって支えられている。本日卒業される皆さんも、今後社会でご活躍されて、その暁には母校そして後輩學生達の学習環境を支えるために、寄付という名の紫紺の襷をぜひつないでいていただけますよう、お願い申し上げます。

皆さんの前途に幸多きこと心より祈念いたし、祝辞といたします。

注：紙面スペースの関係で学長・理事長の告示・祝辞は相当部分を割愛しておりますー編集者
出典：明大広報 第760号

校友会長 北野 大



ご卒業おめでとうございます。

明治大学は1881年明治法律学校として開校以来、

「権利自由」「独立自治」の建学の理念の下、個性を磨き、人格の陶冶を図る教育を伝統としてきた。最近は、この理念は「他を思いやりつつ『個』をつよくなる」という言葉で表されています。(略)

ここで改めて卒業生の皆さんに心よりお祝いを申し上げますと同時に、校友会へ入会され「校友」となれることを、校友一同を代表して歓迎いたします。

明治大学校友会は、大学支援・賛助及び校友相互の親睦を図る活動を継続して続けています。

現在、校友会は全国54支部、海外の2支部（大韓民族・台湾）を加え計56支部で構成され、それぞれ支部参加に223の地域支部が組織化されています。

皆さんの今後の人生の中でぜひとも「おかげ様」という感謝の心、「お互い様」という他者を許す心の持ち主になってください。

そして明治大学卒業という誇りを胸に抱き、ノブレス・オブリージュ（noblesse oblige）の高い志を持ち、「我等に燃ゆる希望あり」で前向きに頑張ってください。

皆さんの若い力が、我々が母校明治大学と校友会の更なる発展につながることを期待し、お祝いの言葉とさせていただきます。

（編集者 校友会は明治法律学校創設後、1882年に校友規則が制定され、4年後(1886)に第1回校友総会が開かれ、誕生しました。

それ以来、校友会は明治大学の歩みとともに伝統と歴史を刻みつつ、校友57万人を擁しています。現在は2009年に就任された向殿政男校友会長の提唱する「明治はひとつ」の精神のもと、母校発展・充実に寄与し、後に続く学生が各人の夢を実現して社会に貢献できるように、また、会の発展のために活動を続けています。

出典：明大広報 第760号

校友会卒業生表彰

学業成績 28名 スポーツ優秀 7名
スポーツ優秀団体 6 特別表 5名



午前の部で表彰された
清原百希さん（総合教理学部）



午後の部で表彰された
佐藤有村さん（商学部）

校友会は、2021年度「校友会卒業生表彰」の受賞者を発表した。

これは、学業やスポーツなどの分野で優秀な成績や顕著な功績を残した卒業生・団体を表彰するもの。昨年に引き続き表彰式は中止となったが、校友会の北野会長は、「皆さまは学業、研究さらにはスポーツにおいて優秀な成績や顕著な実績を残されました。明治大学入学以来、皆さま方のこれまでの努力を称えとともに、心からお祝い

を申し上げます。今回の受賞で皆さまには明治大学卒という肩書にさらに校友会表彰学生という素晴らしい名譽が加わりました。今後もこのプライドを持ち努力することを忘れず、社会での活躍を期待しております」と受賞者に向けたメッセージを寄せた。

3月26日に挙行された卒業式では、午前の部・午後の部でそれぞれ北野会長から代表学生への賞状の授与が行われた。

学校法人明治大学中期計画「第3期中期計画」がスタート

学校法人明治大学「第3期中期計画」が4月1日からスタートする。

この計画は、2021年11月に公表された長期ビジョン「MEIJI VISION 150-前へ」に定めたビジョンおよびビジョン実現に向けた方針を基に、大学経営・運営、財務戦略、施設整備計画、教育、学生支援、研究、社会連携・社会貢献および明治高等学校・中学校の8つの施策について、「中期目標(=5年後の達成目標)」および「中期プラン(=目標達成に向けたロードマップ等)」を策定するもの。

第1期中期計画(実施期間:2014~2017年度)、第2期中期計画(実施期間:2018~2021年度)に引き続き、長・中期計画策定委員会において2022年度から2026年度までの計画がまとめられた。委員会の下には教学専門部会、財務戦略・施設設備整備計画専門部会および組織・運営体制専門部会の3つの専門部会が設置され、それ

ぞれ常勤理事が座長となって中期計画原案を作成。さらに、同委員会において、当該中期計画案が検

討・策定された。3月28日の評議会で承認され、4月1日に大学ホームページ上で公開となる。



長期ビジョン「MEIJI VISION 150-前へ」(本紙第757号既報)における「第3期中期計画」

学校法人明治大学中期計画(明治大学ホームページ)
https://www.meiji.ac.jp/chousaka/middleterm_plan_ver1.html



「生田キャンパス第二中央校舎(仮称)整備計画」が始動



建設工事 2023年4月~2025年2月
 施設開館 2025年3月

現在の生田図書館の北側隣接地に新たに生田キャンパス第二中央校舎(仮称)を建設します。第一校舎1号館、第二校舎2号館、第二校舎5号館の教室と、図書館、ラーニングcommons(総合的な自主学習のための環境)の3つの機能を複合し、現代の社会的ニーズに対応したアクティブラーニングの設備はもとより、これからの教育を見据えた生田キャンパスのハブとなる共用教育棟となります。

明治大学学生交流スペース誕生 2022/4/13 NHK総合TV放映



大型電子黒板を備えた
ラウンジパープル

掲示板スペースを改修して作られる
ラウンジZERO

都市型のビルキャンパスである駿河台キャンパスが持つ学生交流スペースが少ないという課題と、コロナ禍における学生同士のコミュニケーション機会の減少という課題を解消すべく、専任職員15人による部署横断型ワーキンググループによって企画されたもの。ニューノーマル時代にふさわしい空間作りについて、学生へのアンケートやインタビューなどのニーズ調査を行い、検討を進めてきました。その結果、リビティタワー2階の一角に当たる空間をマルチスペース、コミュニケーションスペースと位置付け、家具やカーテンを一新。さらに、オンライン化によって使われなくなっていた掲示板スペース「インフォメーションスクエア」を改修し、グループ席、個室ブースを設けた「ラウンジZERO」として生まれ変わらせます。「ラウンジパープル」には86インチの大型電子黒板を設置し、授業やゼミ、サークルなどでも利用が可能となるほか、屋外のふじ棚広場にもピクニックベンチなどを設置。従来の席数を大幅に増やし、屋内約140席、屋外約30席のスペースが増えることとなります。さらに、学生サービス向上のため、学生の相談に応じるコンシェルジュの設置や軽食のワゴン販売なども予定されています。



ビッグテーブルやソファ席などが設置
されるラウンジアイビー



ラウンジアイビー
(4枚とも、画像は全てイメージ)

東日本大学セブンズ 4連覇達成



第23回東日本大学セブンズフットボール大会決勝戦は4月10日秩父宮ラグビー場で開催されました。

一試合目は法政大学43対0、準決勝は関東学院大学を42対0で、完封で下し、決勝戦は筑波大学との対戦となりました。

決勝戦はそれまでとは異なり開始1分も経たない内に筑波大学に先制を許し、これまでとは違った展開となりました。

直後の3分にトライを返したものの、さらに2トライを追加され、前半は7対17で終了。後半は明治の攻撃の時間が増え4分にトライを返し、6分には1年生で唯一登録メンバーに入った山村選手がトライを決めて、逆転に成功。終了間際に筑波に攻め込まれたものの、粘り強いディフェンスで凌ぎ切り、21対17で4連覇を果たしました。

背景の桜は町田市内尾根緑道のスルガダイニオイ

写真：記事 越智浩治氏 国立

編集後書 2022年度がスタートしました。新年度と言えば新入生、新社会人、新年度会報発行という連鎖で「多摩支部会報-2022春季号」を発行するに至りました。今年度は成人年齢の引き下げもあり、大学1年生はみな成人です。自覚ある思考と行動が求められますね。入学式は4月7日に日本武道館で2部型式で、新入生のみの出席でライブ配信されました。入学者数や式典の様子など把握できていませんので、卒業をメインとしました。入試志願者数は102,426名で、2年ぶりに10万人を超えたそうです。近畿大、千葉工大、法政、明治、東洋、早稲田、日大・・・という情報もあります。学生諸君も多摩支部校友各位も気概を持ってやって欲しいですね。多摩支部広報委員会